学校番号	1006

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	「最新　数学Ⅱ」（数研出版）						
副教材等	「新課程　教科書傍用　パラレルノート　数学Ⅱ」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、考えを発表する活動も行います。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけではなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まで諦めずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分を通して数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章　式と証明	1節　式と計算 1　多項式の乗法と因数分解 2　二項定理 3　多項式の割り算 4　分数式の乗法・除法 5　分数式の加法・減法 6　恒等式	a：三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算できる。 b：式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察できる。 c：解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		2節　等式・不等式の証明 7　等式の証明 8　不等式の証明 9　相加平均と相乗平均	a:等式や不等式の証明の方法を理解できている。 b：実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、証明を問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
	2章　複素数と方程式	1節　複素数と2次方程式の解 1　複素数 2　2次方程式の解と判別式 3　解と係数の関係	a：数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。２次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できている。 b：２次方程式の解について、既に学習した内容と関連付け多面的に考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

		2節　高次方程式 4　剰余の定理と因数定理 5　高次方程式の解法	a：因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 b：式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 c：解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
	3章　図形と方程式	1節　点と直線 1　直線上の点 2　平面上の点 3　直線の方程式 4　2直線の平行と垂直	a：座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や２点間の距離を表すことができる。 b：直線について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現することで、直線の性質や位置関係について考察することができる。 c：コンピュータなどの情報機器を用いて問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		2節　円 5　円の方程式 6　円と直線	a:座標平面上の円を方程式で表すことができる。 b：円と直線について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現することで，図形の性質や位置関係について考察することができる。 c：コンピュータなどの情報機器を用いて問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

		3節　軌跡と領域 7　軌跡 8　不等式の表す領域 9　連立不等式と領域	a：軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 b：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察することができる。 c：数量と図形との関係などに着目し、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
2学期	4章　三角関数	1節　三角関数 1　一般角 2　弧度法 3　三角関数 4　三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式，不等式	a：角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 b：三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 c：二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		2節　加法定理 6　加法定理 7　加法定理の応用 8　三角関数の合成	a：三角関数の加法定理や２倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。 b：三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 c：解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

	5章　指数関数と対数関数	1　指数法則 2　指数関数とそのグラフ	a：指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 b:指数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 c：二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		3　対数 4　対数の性質 5　対数関数とそのグラフ 6　常用対数	a:対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 b：指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 c：二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
3学期	6章　微分法と積分法	1節　微分法 1　平均変化率と微分係数 2　導関数 3　いろいろな関数の微分 4　接線	a：微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 b：関数とその導関数との関係について考察することができる。 c：関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

		5 関数の増減 6 関数の極大･極小 7 関数の最大･最小 8 方程式･不等式への応用	a:導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法について理解することができる。 b: 関数とその導関数との関係について考察することができる。 c: 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		2節 積分法 9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積	a: 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 b: 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 c: 解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度